

# 施策評価調書

施策名	5-1-6	計画的な学校施設の維持		施策を取り巻く環境変化	本町においては、平成22年度で全ての学校施設の耐震補強工事が完了し、児童・生徒の安全で安心した教育環境の確保と地域防災拠点施設としての機能を担う施設となりましたが、建築後30年以上を経過する施設が大半を占めることから、経年劣化が進む施設の維持・補修等について、計画的に実施する必要があります。 また、計画作成後に発生した東日本大震災により、町内小中学校の施設は大きな被害を受け、児童・生徒の教育環境に支障を来している状況にあり、一刻も早い復旧が求められています。
		地域経営計画(後期計画) 該当ページ	P. 66		
担当部課	教育部 子どもみらい課	担当 リーダー	学校教育担当 加藤 敦史		

## 1. 住民意識調査結果

21年度(10月実施)		25年度(※実施予定)		26年度(※実施予定)	
満足度	10.9% 第8位/全36項目(安全な教育環境の整備)	満足度	第 位/全 施策	満足度	第 位/全 施策
優先度	74.6% 第6位/全36項目(安全な教育環境の整備)	優先度	第 位/全 施策	優先度	第 位/全 施策

満足度:「満足である」、「どちらかと言えば満足である」を合計した割合から、「どちらかと言えば不満である」、「不満である」を合計した割合を差し引いたもの  
優先度:「優先すべき」、「やや優先すべき」を合計した割合から、「あまり優先しなくてよい」、「優先しなくてよい」を合計した割合を差し引いたもの

## 2. 施策の目標

指標	基準値	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
指標1:校舎等の維持改修箇所数(箇所) ※H23.9修正	22年度実績	計画	0箇所	0箇所	2箇所	1箇所	1箇所
	—	実績					
指標2:		計画					
		実績					
指標3:		計画					
		実績					
指標4:		計画					
		実績					
指標5:		計画					
		実績					
指標に関する特記事項	○学校施設の耐震補強工事は、前期5か年計画において完了しています。 平成27年度の目標値は、学校施設の長期整備計画に基づき、維持改修工事の施工箇所数6箇所を掲げています。 ○H23年度予算の組み替えがありましたので、H23.9時点で指標の修正をしました。						

進捗状況の区分 上:目標以上の成果があった 中:目標どりの成果があった 下:目標に至らなかった △:遅延・未着手等 ×:見直し・廃止等

## 3. 施策に係る経費

事業費(傘下事務事業費計)の推移【単位:千円】 (※総事業費)	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		当初	10,000	32,200		
	決算					

## 4. 施策傘下事務事業 ※別紙のとおり

## 5. 施策評価

後期計画における施策展開のビジョン		H24年度の狙い
自己評価(部)	H22 事後評価 町内小中学校の改修工事等により、児童・生徒が安全で安心して学習できる教育環境施設の整備と、学校施設が地域防災拠点としての機能を有した施設の整備が実施できました。	平成24年度は、東日本大震災により大きな被害を受けた阿久津小学校校舎の新築復旧、西小学校校舎の1階床の改修を実施し、教育環境に支障を来している施設の早期復旧に取り組んでいきます。
	H24 事前評価 東日本大震災により、大きな被害を受けた学校施設の復旧に取り組んでいきます。 また、経年劣化した施設の修繕につきましては、施設整備計画に基づき計画的に進めていきます。	
総合評価(町長)	<b>総合評価</b> 積極的に施策展開されていることを評価するが、財源確保(事業費・人件費ともに)のため、今後においては、所管部署としても、事業の順位付け、保全費の平準化等、計画執行と財源確保のバランスを十分に検討されたい。 また、将来的な需要に対する全町的な施設のバランス等についても、当該施策の展開を検討する中で、所管部署としての考え方を、中長期的な課題として議論されたい。	<b>施策傘下事務事業に係る個別指摘事項</b> ・「小中学校施設修繕・改修事業費」については、予算総枠の妥当性を予算査定の中で議論するという意味合いで、「条件付継続事業」とする。 ・「阿久津中学校特別教室棟改築事業費」については、「条件付継続事業」とする。 建物の耐震診断のみを「継続」とする。 ・その他の施策傘下事務事業については、全て「継続事業」とする。